



TBS テレビ 2016 年度入社式

4月1日午前10時から、TBSテレビの2016年度入社式が行われ、武田信二新社長ほか幹部が出席、新入社員の門出を祝福しました。

■ 新入社員数

30名(アナウンサー3名、技術4名、一般18名、キャリア採用5名)

■ 武田信二社長 挨拶

新入社員の皆さん、入社おめでとうございます。本日からTBSテレビの仲間として迎えることができ、大変嬉しく思っています。私はTBSテレビ社長2年目です。今日から、TBSホールディングスの社長も兼務することになります。皆さんと一緒にほとんど新米です。新人同士仲良くやっていきたいと思えます。

これを見てください。(着用している「From TBS」ロゴのネクタイを新入社員に見せながら)このネクタイとポケットチーフはビジュアルデザインセンターが作ってくれて、どうしても入社式でつけてくれと言われました。社員が社長をいじる、大変楽しい会社です。皆さんは、今日からそんな会社の一員です。ぜひ皆さんも、早く私をいじるくらい、成長していただきたいと思えます。

TBSテレビは、業界でいうとまだまだ3位、4位です。これを早くトップにするべく、皆さんと一緒に頑張っていきたいと思うわけですが、何をもってトップというと、やはり視聴率です。ここでひとつ視聴率について、皆さんに私が考えていることをお話させていただきたいと思えます。

佐藤智恵さんという方がいらっしゃいます。最近テレビのコメンテーターとして様々な番組に出演し始め、作家でコンサルティングもいらっしゃいます。米コロンビア大学MBAを取得され、4月からTBSの番組審議委員にお迎えします。そんな佐藤さんの著作に「テレビの秘密」があります。この中にTBSについて書かれています。

日曜劇場『半沢直樹』で堺雅人さん演じる銀行の中間管理職が、行内外のいろいろな不条理と戦っていく。一方『ルーズヴェルト・ゲーム』は、社会人野球のチームを題材にした作品で、主人公は社長です。『半沢直樹』の方が視聴率が高かったのですが、なぜ高かったか。不条理に悩んでいる中間管理職はいっぱいいるわけです。社長というのは少ない。この差だと。視聴率は支持数理論だと分析しているわけです。

私自身も、視聴率についていろいろ考えております。視聴率至上主義など批判があることも承知しております。でも、視聴率は、我々テレビ人の思い上がりとか、独り善がりとか、これをチェックする数字でもある。一方で、あなたたちが志している「笑いを届けたい」「感動を届けたい」「隠された真実をスクープしたい」、そういう思いが多くの人に伝わる、それがまさしく視聴率です。ここにいる皆、視聴率大好き人間ばかりです。是非、その視聴率を獲得すべく、これから勉強し、先輩に教わり、皆と一緒に作ってほしいと思います。若者のテレビ離れ、スマホ時代のテレビ番組の見られ方などお話ししたいことはたくさんありますが、研修期間中などの機会にまたじっくりお話ししたいと思います。

最後に、この会社が大変楽しい会社で、やりたいことができるというひとつの事例を話したいと思います。

先月タレントの千秋さんと結婚した弊社の社員、彼はまだ 29 歳ですが、最初の配属先が技術局放送実施部。その後はバラエティや次世代ビジネス企画室を経て、今は編成部におります。この放送実施部にいた 1 年目に、彼は自分の考えている企画や事業を話したいということで、私のところへ来ました。結構激しく議論した記憶があります。その後も、彼は企画を考え続け、『リアル脱出ゲーム TV』という番組を作りました。そんなことができる楽しい会社です。是非、一緒にやりましょう。

以上